

## 委 員 会 議 録

|       |             |   |  |
|-------|-------------|---|--|
| 委員会名  |             | 令和4年度第3回宇部市次期ごみ処理施設のあり方検討委員会  |  |
| 日時    |             | 令和5年2月22日（水）15時～16時30分  |  |
| 場所    |             | 宇部市役所3階 会議室3-4  |  |
| 出席者   | 委員<br>(敬称略) | 山口大学大学院創成科学研究科<br>宇部市環境審議会<br>山口大学大学院創成科学研究科<br>公募<br>宇部市自治会連合会<br>公募<br>公益社団法人 全国都市清掃会議<br>宇部市環境衛生連合会<br>一般社団法人 廃棄物処理施設技術管理協会<br>宇部市廃棄物減量等推進審議会  | 今井 剛<br>木原 裕子<br>熊切 泉<br>小島 桂一<br>竹光 俊晴<br>殿河内 誠<br>濱田 雅巳<br>宮森 由香里<br>柳井 薫<br>山本 紀子                   |
|       | 事務局         | 市民環境部 部長<br>市民環境部 次長<br>市民環境部 環境政策課 課長<br>市民環境部 廃棄物対策課 課長<br>市民環境部 環境保全センター施設課 課長<br>市民環境部 環境保全センター施設課 副課長<br>市民環境部 環境保全センター施設課 副課長<br>市民環境部 環境保全センター施設課 係長<br>市民環境部 環境保全センター施設課 係長<br>市民環境部 環境保全センター施設課<br>市民環境部 環境保全センター施設課<br>中外テクノス株式会社 | 原田 俊宏<br>黒瀬 寛文<br>村岡 和弘<br>中村 隆行<br>田中 芳和<br>山村 隆<br>植田 昌吉<br>前田 敏<br>越智 英和<br>足立 裕美<br>靄井 潤一<br>川口 晃司 |
| 記者数   |             | 0人  |  |
| 傍聴者数  |             | 0人  |  |
| 会議次第  |             | 1. 開会<br>2. 議題<br>(1) 第1回・第2回委員会のご意見を踏まえた対応<br>(2) 第5章「広域処理の可能性検討」<br>(3) 自治体アンケート調査結果の報告<br>(4) その他<br>3. 閉会   |  |
| 委員会結果 |             | 別紙 委員会経過のとおり  |  |

## 委 員 会 経 過

|       |   |
|-------|---|
| 【開会】  | 開始時刻：15時00分   |
| 今井委員長 | 1つ目の、「第1回・第2回委員会のご意見を踏まえた対応」について、事務局から説明してください。   |
| 事務局   | 議題1「第1回・第2回委員会のご意見を踏まえた対応」の説明。  |
| 今井委員長 | 事務局から、「第1回・第2回委員会のご意見を踏まえた対応」についての説明に関し、ご意見、ご質問等があればお願いします。<br>まだ精査等進めているところですが、それも含めて、これで進めていただいてよろしいですか。<br>(意見等なし) ありがとうございます。<br>それでは続きまして、議題の2の「第5章 広域処理の可能性検討について」の説明を事務局からお願いします。  |
| 事務局   | 議題2「第5章「広域処理の可能性検討」の説明。   |
| 今井委員長 | ただ今の内容について、何かご質問、ご意見をお願いします。  |
| 濱田委員  | 参考までにお聞きしますが、美祢市はRDFを作られているそうですが、順調に動き、捌けているという理解で良いのですか。何故かという、ダイオキシン対策として、色々なところで広域化し集中処理するためにRDFにし、保管性と運搬性を良くし、大きな焼却工場で燃やして発電する発想のところ、かなり頓挫しました。今、小さな焼却炉で良いので自前のものを造ろうという方向に動いているエリアもあります。やっぱりRDFは、民間企業で買い取ってくれる形であれば別ですが、なかなかうまくいっていないというのを聞いています。  |
| 事務局   | 美祢市のRDFですが、地元の宇部興産のセメント工場、現・UBE三菱のセメント工場があり、そちらで全量、利用されている状況です。   |
| 濱田委員  | 普通はRDFの製造コストと焼却処分が二重にお金が掛かり大変なため止めていることが、自治体の実態のようです。ただ、(美祢市が)止めたいという話は聞いていないため、うまく動いているのでしょうか。<br>それと、最後の結論は玉虫色のように読めます。この次期ごみ処理施設のあり方検討委員会は、既存の施設の老朽化により建て替える次の焼却工場を、ゼロベースで一から検討して欲しいということで始まっていますが、広域化という話が最初の目次の時からありました。この結論は先ほどの説明を聞くと、今回の検討委員会では間に合わない、次々期と聞こえたのですが、それで良いのでしょうか。20年後にはごみの量が減るのだから、広域化して少しコンパクトなものにして、やっていこうということでしょうか。それなら検討する必要があるということになります。ここの書き方 |

だと、どちらの意味が分かりません。

ただ、この基本構想で最終的には決めざるを得ないのなら、今決まっておらず検討するという事は、できればやりたいという様にも聞こえます。そこは、はっきりとは言えないかもしれませんが、どんなスタンスなのか教えていただけますか。

事務局

濱田委員が言われたように、組合設立というような広域化にしようとする、やはり、関係市町の調整に非常に時間がかかります。先ほど、事務局から説明したとおり、この度はなかなか難しいであろうと考えています。将来的にはやはり次の次のごみ処理施設の更新時には、そこも含めて関係市町と調整して、広域化も検討して進めていきたいと考えています。

今井委員長

他、いかがでしょうか。

竹光委員

大規模災害時には、被災したところは焼却炉が使えないため協力することなら、集約化を進めていく必要があるのではないかと思います。他市で災害が起きた時に宇部市に持ってきてもいいという形を取るのでしょうか。

事務局

広域化、集約化には様々な方法があり、1つに何自治体かが集まって施設を集約化し、ある程度の規模の施設を1箇所に造るという方法があります。これは1箇所が大規模災害で被災してしまうと、ごみ処理が停滞してしまうというデメリットが当然あります。

なかなか集約化が進まないのはそういったデメリットも勘案してのことです。A市のごみ処理施設が被災してしまったら、全てごみ処理がとまってしまうので、B市にお願いするといったやり方は、現状、協定等でやっていますが、将来的にごみ処理の広域化、集約化っていうところが進んでいくと、そういったメリット、デメリットをしっかりと精査して、進めていく必要があるのではないかと思います。

竹光委員

大規模災害が起きた時は、協定で融通し合うということで、今回のような集約化に関しては、そこまで重きを置いてないという考えで良いのでしょうか。

事務局

そうですね。次期ごみ処理施設の計画に当たっては、なかなか難しいのではないかと考えています。

竹光委員

分かりました。

小島委員

ごみ処理の広域化・集約化に関しては、やはり県が音頭を取り、ある程度指針を出してやったほうがスムーズにいくとは思いますが。一応、検討委員会でも広域化の話をしなければいけないから議題にあがっていますが、今

はそこまで必要ではないということですね。

事務局

必要であるかないかと問われると、国もその方針を示していますし、当然県も広域化計画を立て、そこを目指していますので、必要であるとは言えます。ただ、今回の宇部市の次期ごみ処理の計画に当たっては、なかなか難しいであろうというところです。

小島委員

市が音頭を取る必要性が大きいのですか。今の話ではなく、将来的にはです。

事務局

やはりここは、県が主導して、この計画を進めていくべきだとは考えています。

柳井委員

宇部・小野田広域ブロックの人口が、将来 81%まで減となっていますが、3市の人口の見通しは、結構差があるのでしょうか。山口県全体の79%よりは少し減りが少なくなっていますが、人口構成等3市の見通しが結構違っているのかどうかを聞かせてください。

それから、12ページで参考資料は国の資料そのままでしょうか。環境省が12市町村の結果を公表している資料なら、その様に書いて欲しいです。これ読むと、最後に出典は書いてありますが、参考資料の表題のそこには何も書いていないので、宇部市が調べたようにも見えました。

それから、考え方として、広域化は当然必要になります。これから財政も厳しくなり、人口減でごみ処理にばかりにお金を掛けられなくなりますし、財政破綻をしないようにするためには、できる限り効率的にしないとイケません。小さいものを2つ造っても、どうしようもなくなります。

ただ、今の現況を見ると、協議に進むのは少し難しいような状況です。広域化計画を山口県の考えどおりにやるにしても、協議には恐らく10年、20年単位で時間が掛かるかもしれません。

そういった意味では、将来の課題というよりは、できる限り協議を早めに進めたほうが良いのではないのでしょうか。県で考えている（広域ブロック）3市で、早めにその状況について協議・意見交換を始めなければ、あっという間に10年過ぎて、そのうちに美祢市のRDFがどうなっているか等になります。ただ、その辺の提言を委員会としてどうまとめるかは非常に難しいと思います。

ただ、将来の課題で、この書きぶりは良いと思います。「将来的には」が少し引っかけますが、「県の広域化計画に基づき、広域処理について検討を進めていく必要があります」は、委員会の答えらしいものです。ですが、あまり将来、将来言い過ぎるのはどうなのでしょう。あっという間に5年、10年たって、私どもはやりませんが、みんな整備終わりましたということになりませんか。

もう少し踏み込んで、早めな協議も望まれるというような感じも少しは入れる必要があるのでは。書き方自体の話で、簡単に協議が整うというこ

とはあり得ませんが、意見と質問です。

事務局　　まず3市の人口構成の見通しについてですが、宇部市については将来の人口ビジョンを掲げているため把握はできているのですが、美祢市と山陽小野田市については、まだ資料がなく、明確なところが分かりません。

柳井委員　　しかし、このブロック全体で84%とはどこからきているのですか。

事務局　　これは県の広域化計画になります。

柳井委員　　個別のものは分からないのですか。

事務局　　現状の資料では分かりません。

柳井委員　　たぶん、無いと作れないため県に聞けば分かるでしょう。  
あと、この参考資料はどうなのですか。国の資料なら国の資料と書いてくれたら良いと思います。

事務局　　資料につきましては、下に書いてあるとおり、引用資料です。

柳井委員　　では、頭に書かないとおかしいのではありませんか。これだと宇部市が調べたみたいなイメージになります。

事務局　　はい。申し訳ありません。

柳井委員　　あとは、こういった纏めをどうするかという難しい話です。

濱田委員　　広域化が難しいのは分かりました。ただ、少し勘違いされていて、県の主導でとの話ですが、県は計画は作るのですが、多分主導はできません。何故かという、やはり広域化する時の一番の課題は施設整備のための土地の確保になりますが、県は用地を通常持っていません。そうすると構成市町内のどこかに造るのですが、ここでは宇部市が大きいので、宇部市のごみを運ぶ効率性を考えるなら、おそらく宇部市内になります。そうすると、その施設を造る用地を提供する市が中心とならない限り纏まりません。

言い方は悪いですが、自分のところにごみが来ない市は、施設整備もなくていいわけです。例えば焼却工場等、そんなに喜ばれない施設を造ることは普通ウェルカムではありません。私はウェルカムでも良いと思っていますが、なかなかそう理解は得られない、そういう苦勞を地元市が全部負うのです。

そういう意味で、ここに「検討を進めていく必要がある」ということを書くかどうかはともかくとして、先ほど、「将来的には」というのであれば、今、柳井委員がおっしゃったように、それは一番大きなところが、宇部市

が中心となって声がけをして動き出さない限り、検討も進まないと思います。県は協議会を設ければ参加してくれます。市の方々が入り、そこに県が入るというスタンスはありますが、県が積極的にその場をつくるという事は聞いたことがありません。

ですから、柳井委員が言われたとおり、できる・できないは別として多少とも動かなければ、全く進まないと思われます。そういう心意気・スタンスは、文書には書かなくていいと思いますが必要だと思ひます。

事務局

貴重なご意見ありがとうございます。

今井委員長

私がこの質問をして良いか分かりませんが、12 ページの上部の広域化に関しては、この委員会で方向性や書きぶりを多少もう少し突っ込んだ書き方にできるか等ありますが、今回の更新に合わせての広域化の議論というのは難しいということで結論をつけて、色々な状況からして次には必ずやらなくては行けない状況になるという事は容易に予想がつきますので、そういう文章で良いかを、ここで決めるということ事で良いか確認させてください。

柳井委員

結局、この書きぶりをどうするかです。これで良いような気もしますが、私はもう少し踏み込んで良いと思ひます。

濱田委員

要は、今回は無理という点をもう少し書くことと、次回に向けてはもう少し積極的な言葉使うことです。ただ、時代の流れとしては、広域化を進めるべきだということですから、それに向けてどう書くかということです。委員会で作る資料ではありますが、宇部市の基本構想になり、宇部市の手足を縛る可能性もあるので、書き方はお任せをしますということだと思ひます。

今井委員長

もちろん、協議会を宇部市が率先して立ち上げるとは当然書けないとは思ひます。ただ、次回・次々回にその辺については協議を進める必要があるというような形の書きぶりまで入れられるかどうかです。そこはぜひご検討ください。

ということで、今回の内容としては、そういう内容で書いていただくというところをご了承いただくということによろしいでしょうか。

ありがとうございます。他にご意見・ご質問等よろしいでしょうか。

それでは、3 番目の議題のほうに進ませていただきます。

3 番目の議題は自治体アンケート調査結果の報告について、事務局のほうから説明をお願いします。

事務局

議題3「自治体アンケート調査結果の報告」の説明。

今井委員長      それでは、ただ今ご説明いただいた内容に関しまして、ご質問等いただければと思いますが、いかがでしょうか。

                         項目についての質問ですが、2 ページの一番上「2. 施設整備の検討背景」の一番最初の「処理方式」は整備後のものですか。「既存施設の老朽化」について、左の「処理方式」が既存の施設ではなく、その時に整備したものでしょうか。

事務局              そうです。

今井委員長        この既存の施設が何だったかを調べられていたら、その情報もあげてもらえますか。もしかして、違う処理方式でやられていた等が分かればありがたいと思います。

事務局              また補完して、ご報告します。

今井委員長        はい、ありがとうございます。

                         また、そのすぐ下の「3. 施設整備に係る事業費（工事費）」ですが、この一番右の、「1 トン当たりの平均工事費」は交付金を含んでのものでしょうか。それとも交付金を除いての額でしょうか。

事務局              交付金を含んでいます。

今井委員長        はい、ありがとうございます。

柳井委員            少し気になっているのが、今のお金（工事費）の件ですが、このお金を出す意味があるのでしょうか。物価が安定した時期なら良いのですが、最近はかなり高騰しています。5 年前に整備した施設と 1 年前に整備した施設ではこの単価等も全然違うはずで。

                         資材関係も上がっていますし、何かコメントしないと、これとあんまり比較されても大変ではないでしょうか。

                         それから、「6.処理方式の選定理由」のところで、ストーカ式焼却方式は（「2. 施設整備の検討背景」では）既存の老朽化と施設整備で4件ありますが、選定理由がぽつぽつと列記されていますが、これは、4 件中の 2 とか、件数を書いたほうが良いような気がします。また、少数のため、そこまでやるかどうかは分かりませんが、選定理由の数も、2 つの自治体とか 3 つあるとかも含めて、数を書いてもらったほうが分かると思います。もちろん 1 つしかないものは、1 つで良いです。

                         それと、「5. 事業者の選定方式」の、総合評価落札、プロポーザル等ありますが、例えばこのプロポーザル方式とはどんな方式なのでしょうか。一般的なプロポーザルというものも当然ありますが、このプロポーザル方式がどういう形でプロポーザルを求めたのか、例えば一定の要求水準書を書いたとか、何でもいからこれだけのごみ进行处理して欲しいというよう

な、プロポーザルで求める仕方がどんな感じだったかが分かれば教えてもらいたいです。

事務局

まず、コストにつきましては、ご指摘の面もありますが、今後メーカーアンケートを取る時に、現時点における相場感というのは、そちらの方で補完できるのではないかと考えています。

それから、「6. 処理方式の選定理由」のところの選定理由ですが、各項目にアンケート数の分母を入れさせていただくことによって、分かりやすいように補完します。

それから、プロポーザル方式の仕方についてですが、また追加でアンケートを聞くなり、個別のプロポーザルを選択された自治体に確認を取るなりさせていただきまます。

柳井委員

数が少ないので、確認はしやすいと思いますのでよろしくお願いします。

濱田委員

「3. 施設整備に係る事業費（工事費）」の表は、確かに時期等にも影響を受けますが、例えば公害防止基準等が違ってきますと、焼却施設本体とは別でその処理施設でも後ろに付く排ガス処理装置等が変わります。それで数字をいじることはできませんが、どうしてこれだけ費用が違うのか、時期の問題と中身の問題を少し確認したいところです。

気になるのが、ストーカ式と流動床ガス化溶融炉方式で、（表では）流動床ガス化溶融炉のほうが安いことです。十何年前の資料で、ストーカ炉と流動床式の焼却炉が、ほぼニアリーイコールのような資料があると認識しています（流動床式焼却炉と比べて流動床ガス化溶融炉のほうが高い）。メーカーの価格も当てになるかどうか分からないので非常に難しいのですが、そこは整理をしてください。ただ、経済性のようなことをおそらく評価せざるを得ないと思います。

最終的に選択する時に、お金の問題は必ず付いて回るものであり、何かの数字を出さなくてはいけないのですが、何をやっても矛盾の数字が出てしまう可能性があるので、色々なデータを集めて、アンケート結果じゃない形での受注実績みたいな別の資料も参考にされた方が良いと思います。

今井委員長

あと、年度もそうですし、規模もそうですね。

濱田委員

規模が大体分かっている、トン当たりで分かっているのなら、割り戻しているのです。方式は別ですが、そんなに極端にずれている規模ではないはず。確か、ニアリーイコールの百数トン。（「1. 整備した施設の処理方式」の表で）1番上から154トン（ストーカ式焼却方式）、139トン（流動床式ガス化溶融方式）、198トン（シャフト炉式ガス化溶融方式）、204トン（ハイブリット式）で、これで平均です。堆肥化とトンネコンポストは極端に小さいですが、他はまあ百数十トンから200トンくらいです。その規模の違いで価格が変わるというのもあるかもしれません。トン

単価で確認をしていただきたいと思います。

それと、「7. 処理方式を決定する前に候補に挙げた処理方式及び見合わせた理由」の表で、流動床ガス化溶融方式の3つ目の「酸素式ガス化溶融」とは何でしょうか。

事務局 これは、ご回答いただいた言葉のままなのですが、恐らくシャフト炉式の、PSA（酸素製造装置）を使ってやるものだと思います。

柳井委員 これは製鉄会社系のものか何かでしょうか。

事務局 恐らくそうだと思います。

濱田委員 あれは、もうやっていないものでしょう。

柳井委員 いえ、動いていると思います。

濱田委員 分かるのなら、ちょっと聞いていただけますか。

事務局 はい。

濱田委員 アンケートを取りましたが、最終的に処理方式を評価するのでしょうか。（アンケート結果には）何が良くて何が悪くて、選ばなかった方式にこういうことがあり、それは何で駄目だったのかまで書いてあります。実際に施設を造って使っている自治体に感想を聞いたように読めました。

これは、何のためのアンケートだったのか、基本構想の中でどう纏めるか、全然イメージができていません。

ただ、処理方式の評価を事実として列挙するというやり方もあるのかもしれない。例えば、もう、どう逆立ちしてもこの処理方式で完結しないものは、省くというやり方もあります。基本構想では「完結の条件とは何か」といったことを書いて、あとは生き残るようにまとめる方法もあります。これから、色々データを集めた中で判断するというのであれば、おそらくその後に基本計画的なものを作る時に、もう少し具体的な計画論の中で優劣がつくということなのか、どのようなイメージをお持ちか、教えてください。

事務局 これから、こういった自治体アンケートやメーカーアンケート結果等、そういった資料を皆さんにお示して、その幅広い意見をトータル的に判断して、ある程度、炉形式の優劣といいますか、ある程度のことを見定めていきたいと考えています。

柳井委員 この委員会で、そこまで意見が纏まるでしょうか。例えば、宇部市の考え方とか、地域とどうしたいとか、色々な基本的なものを出していただ

けないと、判断基準が難しいのです。

資料として、今後何かに向けて検討を進めたい程度なら良いですが、ここで決めてしまうなら、市の構想等、色々なものに基づいて、「こういったものが欲しい」と一つあった上で、それを進めていく上で、これは適正ではないか等、幾つか選んでいくというのは分かりますが、何も無い中で、アンケート結果で良さそう・悪そうだけで、この委員会で纏めていく事は、難しいです。

濱田委員

逆に言うと、絞り込むためには与条件をもらわないとできません。その与条件には数字的な問題と、市が求めている方向性みたいなもの等、色々あります。

柳井委員

次じゃないかと思います。

濱田委員

それが出せないのであれば、処理方式を列挙して、特徴を整理する書き方しかできないでしょう。全部の施設を見て回り、皆さんが評価・検討できれば別ですが、できない代わりに現在使っている自治体に話を聞いたわけですから、特徴についても、ある限定された情報の中で整理した表現になります。

ただ、そうは言いつつ、絞り込むには、確定した絶対にぶれない与条件がなければ駄目なのです。逆に、宇部市が出せないなら、今回は、その手前まで置いておくことも判断の1つだと思います。与条件を私達が決めるわけにはいきませんから、そこは検討をお願いします。

柳井委員

経済性に優れたものや、適正処理・二酸化炭素（削減）にふさわしいものを選んでくださいというものならいいです。しかし、この方式の中で、構想としてまとめていくのは、次のステップか、次の次のステップぐらいの話です。どういうものが欲しいか市の考え方と、委員会としてみた今後のごみ処理はこうすべきではないか、こういう優れたものを選んだ方がよいのではないかという纏めなら、議論すればある程度は進むのですが、ここまでブレークダウン（細分化）する話になると、結構しんどいのではないのでしょうか。

小島委員

次の次の話で出てくるのかもしれませんが、建設予定地の規模など、そういうものはおおよそ想定されているとは思いますが、それは、この方式全てが適う感じの規模でしょうか。

事務局

中にはですね、今、ごみ処理施設と言いつつ、可燃ごみの処理に少し特化してお話がされているような感じなのですが、実際には、不燃物の中間処理施設であったり、資源化施設であったりということまで、トータルで次期の施設の更新について、今検討しているところですので、そういったもの全てを想定する土地に建設しようとした際は、なかなか難しいもの

も実際にはあると思います。

小島委員 回答のあった自治体というのは、宇部市と同じぐらいのごみ処理量・排出量の自治体でしょうか。それとも、建設されてからの、適当に選んだと言ったら変ですが、ばらばらでしょうか。

事務局 基本的には、100トンから200トンの間の自治体を選択的に選定しましたが、処理方式によっては、そういう規模のものがない場合もありましたので、それについては、規模要件を外して選んでいます。

小島委員 その回答された自治体というのは、人口で言うと、宇部市ぐらいのところでしょうか。それとも都市部も含めてのところでしょうか。

事務局 人口規模で言うと、100トンから200トンは、おおむね人口が10万人から20万人のところになりますので、宇部市の人口構成に近いとは考えます。ただ、(処理方式の関係で規模要件を)除外した一部のところについては、例えば、京都市の南部クリーンセンターになりますと500トンとか、そういった施設も規模が違いますがアンケートとしては聞いています。

小島委員 アンケート結果を見て、「じゃあ、これがいいですね」「じゃあ、これに決めましょう」という話ではなく、先ほど言われたように、施設の土地の規模とか、経費等、色々関わってくると思われますので、もう少し宇部市がどういった方向性でいくか分かりやすいほうが、こちらとしてはありがたいと思いますのでよろしくお願いします。

今井委員長 他、いかがでしょうか。  
先ほどから話題にもなっていますが、多分このアンケートの中から選んで、どれが良いかという話ではないと理解しています。また、もう一段階なり進んでいけば、より具体的な話になってくるのかなと思います。

濱田委員 今の段階ではなくて最終の決着点として、どこを目指して議論をするのかということです。  
事業費や工事費等、色々な具体的なものが出てきたので、数字が正しければ「○」「×」「△」が付きます。そうすると、最終的に良い悪いになってしまうのではないのでしょうか。条件が整わないと難しいのではないのでしょうか。

柳井委員 ここの委員会の中では(難しいのではないのでしょうか)。  
方式選定は基本構想で、もう検討委員会ではないと思います。

濱田委員 それは委員長、副委員長がおられるので、事務局との関係だと思えますから整理をしていただけますか。

今井委員長 はい、分かりました。

竹光委員 確かゼロベースで検討ということですが、現在の設置場所に造るのかと  
思っていたのですが、設置場所もゼロベースなのでしょうか。

事務局 処理方式についてゼロベースで考えているというところですよ。

今井委員長 場所まではさすがに（ゼロベースでの検討は難しいです）。

竹光委員 そうすると、あの場所が防災の拠点になるのでしょうか。ただ、電気、  
ガス、水道の供給拠点ということで、防災の拠点になると言われれば、そ  
れでもいいかとは思いますが、避難場所として想定するなら、あの場所は  
少し問題があると思っています。

事務局 ごみ処理施設というのは一般的には、迷惑施設という認識を持たれてい  
るため、場所の移動がなかなか困難な状況です。他の自治体の例をとって  
も、なかなか設置場所の住民同意が得られずに建設に着手できないとか、  
時限措置を持たれるとか、そういった状況です。  
宇部市の場合、幸い工場地帯で、割と住民のご理解も、市民のご理解も  
得やすい場所でごみ処理がなされていますので。現状、現ごみ処理施設周  
辺含め、あの辺りであれば、皆様のご理解が得られやすいかと思ってい  
ます。

竹光委員 広島のある焼却施設について、テレビで良い内容で紹介されていました。  
今では焼却場の前で結婚式の事前写真を撮るようなニュースが流れていま  
す。今の焼却施設のイメージは昔と大分違うと感じました。それなら、宇  
部市も新しいところをゼロベースということなら、設置場所も違うところ  
を検討しているのではないかと思つての質問です。

今井委員長 場所に関しては、ゼロベースではないということ。施設に関しての処  
理方式というところでのゼロベースということですよ。

竹光委員 はい。

今井委員長 確かに広島でしたか、あの施設は総ガラス張りか何かで、そのニュース  
を見て、すごくお金をかけていると思いました。他、ありますでしょうか。

柳井委員 私の認識が間違っていたのかもしれませんが、処理方式については、ど  
の辺までゼロベースでしょうか。この委員会で纏めるというのは、どうい  
うことでしたでしょうか。

今井委員長 初めは、収集など、その辺も含めて全部という形だったので、あまりにも広過ぎるということで、かなり絞り、事務局のほうからも絞って、処理方式というところまでできているところです。ただ、そういった意味では、生ごみの分別などの辺までは、まだ確定しているわけではありません。

柳井委員 処理方式も一定方向性を纏め上げるということですか。

今井委員長 そうですね、ある程度の方向性を。一番分かりやすいところと言えば、生ごみに関しては、焼却でいくのか、あるいは堆肥とか、その辺の施設と併用でいくとか、そういったところも含めて議論しているのかなという理解をしています。

濱田委員 議論はいいのですが。

柳井委員 議論はいいですね。

今井委員長 目指す方向ですね。

柳井委員 例えば、今回、基本構想のために、先ほど述べられたようなあるべき論を書き、それを実施するためにはこれだけの方式がありますと（提示しました）。そして、次はおそらく基本計画を作ると思いますが、その時にもっと色々な条件を出し、細かい点を通して、例えば先ほど土地に入るか入らないかも含めて、もっと絞り込んでいきます。絞る時も色々なやり方があり、1つにしないというやり方をしているのです。入口と出口だけ一緒にし、あとはメーカー提案の様なやり方をする場合もあります。何を言いたいかというと、委員会で「これしか出せない」というので良ければ、私たちが議論をしても良いのですが、この委員会を立ち上げた宇部市の要望に答えられるかどうかは分からないので、今決まっていなくてあれば、今日でなくても良いので、（目指す方向の）話をして欲しいと思います。そこはどのようなものが欲しいのか、決まっていなくてそれを議論していただいて、一回どこかで説明していただきたいと思います。今、議論している中身が最終的にどんなものになるのか、イメージが湧かないと余計な話をしてしまいます。

殿河内委員 メーカーアンケートを見ていますと、いわゆる設置コストやユーティリティのコスト、年間コストも入っているのでしょうか、要は数字が出てきます。そうすると、各方式の違いによって、その辺の数字の比較をこの後やるのでしょうか。例えば、設備コストだったらこれ以内でないと駄目だとか、ある程度のその制限範囲を決めて、そこから処理方式を選別していくというようになるのでしょうか。これは、優劣が出てくるため、ある程度選別をしていくのかどうかですが、このメーカーアンケートの使い方をどうされるのか。次のステップになるとは思いますが教えてください。

- 事務局                    メーカーアンケートだけにとらわれて、数字を取り纏めて何かを決める事はかなりのリスクがあると思われます。当然、過去にさまざまな資料で実績等出ていますので、そういったところも踏まえて、総合的に資料策定で判断していければなと考えています。
- 殿河内委員              要は、選定に当たっての参考とするということでしょうか。
- 事務局                    そうです。参考・目安にはなるのではないかと考えています。
- 殿河内委員              宇部市のある程度の制限と、その辺の数字との整合性ということでしょうか。それによって、処理方式の選別の、ある程度の目安にするのでしょうか。
- 事務局                    まだ、メーカーアンケートを取れていないため、どこで線引きをするかなど、そこまでは考えていませんので、その結果をもって、判断したいと考えています。
- 木原委員                先ほど、土地はもうある程度決まっているということですので、その中で、宇部市で実施するには厳しいというのが分かっているものもあるのであれば、参考資料として最初に示しておいたほうが良いのではないのでしょうか。それぐらいは、この委員会でも書けるのではと思いました。
- 事務局                    第2回の委員会でお示した各処理方式の中に、出典元等、色々ありますが、各施設ごとのメリット、課題等、もっと意見として書ける部分がありますので、そういったところまでできる限り、皆さんにお示ししたいと考えています。
- 今井委員長              他、よろしいでしょうか。  
それでは、今、ご説明いただきました自治体アンケートをどのように使うかということと、今後の方針というところについては、次回また、より明確に示せるように、私のほうも事務局と打ち合わせしながら、進めさせていただければと考えていますので、よろしくをお願いします。  
それでは議題の最後の「その他」についてはなしと事務局からお伺いしていますので、皆さまのほうから何かありますでしょうか。  
それでは本日の検討委員会はこれで終了します。

【閉会】

終了時刻：16時30分